

進路通信

5月27日

学部・学問情報

◆音楽…演奏、教育、歴史から“音楽”にアプローチする

【学問の内容】

音楽は、美しい音による芸術であり、この学問分野では音楽全般に関するあらゆる理論と技能が研究対象です。広く研究されている分野は、音楽の歴史を踏まえたうえで“音楽”という芸術の本質を学問として理論づける「音楽学」や、個人レッスンが中心となる「声乐」「器楽」（管楽器や弦楽器などの楽器演奏）、また「作曲」、「音楽教育」、コンサートなどの運営を行う「音楽芸術運営」などです。音符を読む・書く・歌う・聴くといったことを学ぶ「ソルフェージュ」は音楽教育の基本中の基本で、音楽のどの分野に進んでも必要となります。同じようにピアノも基礎となるので、それぞれの専門以外にピアノの演奏技術も修得します。

また、生活に密着した各地の民族音楽にも注目が集まっています。この両分野は今、新しい演奏家の登場が待たれていて、伝統的な楽器の演奏技術を身につけたうえで、これまで扱ったことのない楽器の演奏に挑む人も増えてきています。

【卒業後の進路】

卒業生の多くは、小学校、中学校、高校の音楽教員や、ピアノやバイオリンなどの音楽教室の講師になるほか、音楽事務所、楽器メーカー、音楽専門誌の出版社など、音楽関係の企業に就職する。また、大学院に進学してさらに研究を続ける人や、オーケストラに入団したり海外留学をしたりして、プロの演奏家をめざす人もいます。

◆美術・デザイン…「表現したい」という欲求を形にする

【学問の内容】

美術・デザインでは、自分の感性と技法を生かした美術作品を作ることを目的としています。そのための表現方法をさまざまな角度から研究しますが、単に方法を学ぶだけでなく、自分自身の表現を通じて「美とはなにか」を追究していくことも目的の一つです。美術・デザインの分野は、絵画（洋画・日本画・版画など）、彫刻（木彫・石彫・粘土や石こうによる像・金属加工など）、デザイン（印刷物を扱うグラフィックデザイン、街作りを含む環境デザインなど）、工芸（木工・金工・漆工・染色・陶芸など）などがあります。いずれの分野でも、まず基本としてデッサン力が必要です。

最近では、このような絵画や彫刻という手法を先に決めるのではなく、作家自身が表現したい内容によって手法を選択していく傾向にあります。筆の代わりにコンピュータを使って描くCG（コンピュータグラフィックス）も多く使われています。すべての芸術作品は、作家の「表現したい」という欲求から生まれます。その基となる経験や直感を得るためには、広い視野に立ってあらゆる事象から精神的な刺激を受けることが必要です。その源である美学や美術史についての理論的研究は、これからさらに注目される分野です。

【卒業後の進路】

画家、彫刻家、デザイナーなどになって創作活動が続ける人もいますが、専門を生かして広告や出版関連の企業で、企画、デザイン、宣伝、マンガやアニメーション、コマーシャルなどの制作に携わる人も多し。また、中学校・高校の美術教員、美術館の学芸員になる人もいます。